

授業科目名 (英文表記)	グローバル化の歴史と現状 (Past and Present of Globalization)		
単位数	2	授業形態	演習
担当教員	今田 秀作		
開講	南紀熊野サテライト	区分	大学院
実施日・時間	12月6日(金) 18:30~20:50	1月11日(土) 10:00~16:00	
	12月7日(土) 10:00~16:00	1月24日(金) 18:30~20:50	
	1月10日(金) 18:30~20:50	1月25日(土) 10:00~16:00	

【授業のねらい・概要】

過去数十年に亘り、グローバル化と呼ばれる現象が急速に進行し、社会の様々な側面に大きな影響を与えてきました。それは国や地域の姿を変えつつ、個人個人の生活の分野にまで強いインパクトをもたらしました。他方で近年では、グローバル化に伴う弊害を指摘する声も現れ、それが社会的格差拡大の要因であるとか、あるいはナショナリズムやポピュリズムといった政治的潮流を生み出す背景となったと言われることもあります。今の時期は、グローバル化について冷静に考えてみる好機なのかもしれません。本授業は、グローバル化の歴史をたどることを一つの切り口としながら、この現象に関わる現代的な問題を考えることを狙いとします。本授業で注目するのは、世界に先駆けて近代社会となり、以後グローバル化の最初の推進力となったイギリスの歴史です。イギリスでは、こうした役割に伴って、早くからグローバル化の是非について多くの議論が積み重ねられてきました。そして現在イギリスでは、EU(ヨーロッパ連合)離脱をめぐる、なお激しい議論が続いています。イギリスの歩みは、グローバル化について考える上での豊富な材料を提供してくれます。本授業は次の二つの部分から構成されます。

- ① 授業担当者がグローバル化をテーマとして、イギリスの近現代史について概説する。またトランプ政権に至るアメリカの歴史についても触れる。
- ② 参加者の関心にもとづいて適当な書物を選び、輪読して議論を行う。

グローバル化から影響を受けてきた点では紀南地域も決して例外ではなく、むしろ独自の困難と新たな可能性の両方を与えられてきたとも言えるでしょう。地域の問題を考えるうえでは広い視点に立って考察することも必要であり、グローバル化を歴史的に捉えることが地域問題に対する何らかのヒントになることを願っています。

【授業計画】

- | | |
|------------------|-------------------------|
| 1 イントロダクション | 2 ヘゲモニー国家イギリスの経済政策 |
| 3 イギリス産業の相対的衰退 | 4 イギリスを中心とした世界的貿易ネットワーク |
| 5 イギリスとインド植民地 | 6 イギリス国内の社会運動 |
| 7 イギリス金融立国への道 | 8 第一次世界大戦後のイギリス |
| 9 ケインズ主義と福祉国家体制 | 10 サッチャリズムとヨーロッパ統合 |
| 11 イギリスの歴史と日本の将来 | 12 イギリスの緊縮政策と総選挙 |
| 13 イギリスの国民投票 | 14 EU離脱の影響と交渉プロセス |
| 15 まとめ | |

【到達目標】

グローバル化の歴史を踏まえて、地域や社会の問題について考えることができる。

【教科書】

担当者の概説部分については、資料・レジュメを配布する。

書物については、受講者が確定した後、適当な時期に連絡する。今のところ次のものが候補である。

尾上修吾「Brexit「民衆の反逆」から見る英国のEU離脱」明石書店、2018年。

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価方法】

授業に対する参加の姿勢にもとづいて評価する。

【授業時間外学修】

本演習の授業計画に沿って、準備学習と復習を行うこと。さらに、授業内容に関連する調査・考察を含めて毎回の授業ごとに自主的な学習を求める。

【履修上の注意・メッセージ】

書物についての連絡を受けたら、授業開始までにじっくり読んでおいて下さい。